

施設で暮らす子どものアドボカシー ～市民による施設訪問活動から～

NPO法人子どもアドボカシーセンター-OSAKA

市民アドボケイトとして活動

- 子どもの人権が大切にされる社会をめざす子ども情報研究センターが1997年にカナダアドボカシー事務所所長招聘、カナダをモデルに2003年より「子ども家庭相談室」開設
- 相談員として活動
- 施設訪問アドボケイト養成講座を受講
- 2017年6月より、事前訪問開始
- 2020年3月に子どもアドボカシーセンターOSAKA設立総会、6月にNPO法人取得
- アドボケイトとして、児童養護施設・障害児施設に訪問をして3年

独立アドボケイト養成講座

申込みの切
9/15

この養成講座は、市民がアドボカシーの活動を理解し、独立アドボケイトとして活躍できるようにすることを目的としています。実際に地域で活動するには、実践講座の受講が必須です。

スケジュール&内容

入門講座

	開催日時	講座名	講師
1	1日目 9月20日(日)	13:00~15:00 アドボカシーについての理解① ・出会いのワークショップ(子どもの権利) ・子どもの権利条約とアドボカシー ・アドボカシーの意義と必要性 ・質疑応答と意見交換	堀正嗣 (熊本学園大学)
2	9月20日(日)	15:10~17:10 アドボカシーについての理解② ・訪問アドボカシーと個別アドボカシー ・アドボカシーの担い手 ・アドボカシーの理念と原則 ・質疑応答と意見交換	堀正嗣 (熊本学園大学)
3	2日目 9月21日(月)	13:00~15:00 アドボケイトに求めるもの 社会的養護経験者から	滝澤ジェロム (一般社団法人子どもアドボカシーセンター NAGOYA)
4	9月21日(月)	15:10~17:10 日本におけるアドボカシーの展望 ・児童福祉法改正と厚労省の動向 ・2つのガイドライン ・子どもアドボカシーセンターと市民の役割 ・質疑応答と意見交換	堀正嗣 (熊本学園大学)
5	3日目 9月22日(火)	13:00~15:00 アドボケイトに求めるもの 障害当事者から	尾上浩二 (NPO法人ちゅうぶ代表理事)
6	9月22日(火)	15:10~17:10 子どもの参加とアドボカシー イギリスと日本	奥田陸子 原京子 (一般社団法人子どもアドボカシーセンター NAGOYA)

対象: アドボケイトとして活動したい市民
・活動をするためには、12月の実践講座を受講してください
・実践講座は無料です。

参加費: 30,000円(単発参加可 1コマ5,000円)
子どもアドボカシーセンターOSAKA会員は、全18,000円(1コマ3,000円)
ユース会員は、全6,000円(1コマ1,000円)

定員: 20人 ZOOM参加のみ
・単発受講の方は20人を超えても受け付けています。
・ZOOM環境がない方は、事務局までご相談ください。
・後日、URLを送ります。

申込み: 右のQRコードからもしくはHPのお申し込みフォームからも申し込みます。
問い合わせ: TEL: 080-4562-4134 メール: childadvocacyosaka@gmail.com

主催: NPO法人子どもアドボカシーセンターOSAKA



独立アドボケイト養成講座



この実践講座は、地域で独立アドボケイトとして活躍できるようにすることを目的とした講座で、子どもアドボカシーセンターOSAKAが実施するものです。

実践講座

	開催日時	講座名	講師
1	10:00~11:50	オリエンテーション 子どもアドボカシーの実際 ①信頼関係の形成 ②傾聴 ③意見表明・意見形成・意見表明支援・代弁	アドボケイト
2	12:50~14:20	子どもアドボカシーのスキル① 演習	宋留里美 (大分大学)
3	12月12日(土) 14:30~16:00	子どもアドボカシーのスキル② 演習	宋留里美 (大分大学)
4	16:10~17:40	障害児者アドボカシーの原理と実践 ①障害の社会モデルに立つアドボカシー ②障害児者アドボカシーの独自性 ③非指示型アドボカシー	堀正嗣 (熊本学園大学)
5	18:00~	意見交換会	
6	9:30~10:50	児童福祉の仕組みとアドボケイトの役割 ①児童相談所及び社会的養護の役割 ②権利擁護の仕組み—権利ノートなど ③アドボケイトの役割	昇慶一 (常磐会学園大学)
7	12月13日(日) 11:00~12:30	障害児訪問アドボカシーのプロセスと方法	烏海直美 (四天王寺大学)
	13:30~15:00	障害者施設におけるアドボカシーのプロセスと方法	吉池毅志 (大阪人間科学大学)
8	15:10~16:40	障害児者アドボカシーの実際 ①信頼関係の形成 ②傾聴 ③意見表明・意見形成・意見表明支援・代弁	アドボケイト
9	16:50~17:20	修了式	

対象: アドボケイトとして活動したい市民
・受講後、施設訪問するとはかぎりません。・対面で実施します。

定員: 20名 ・申込締め切り 12月4日(金)

場所: 堺市総合福祉会館ミーティングルーム2 (新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。)

参加費: 無料(オンライン参加不可)

申込み: TEL:080-4562-4134 メール: childadvocacyosaka@gmail.com

※右のQRコードからもしくはHPのお申し込みフォームからも申し込みます。

主催: NPO法人子どもアドボカシーセンターOSAKA

この講座は「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施しています。



Ministry of Health Education
NPO法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」



📬 アドボケイトがくるよ 📬

こんにちは！

ひとり、お話ししたい人がいたら言ってくださいね。

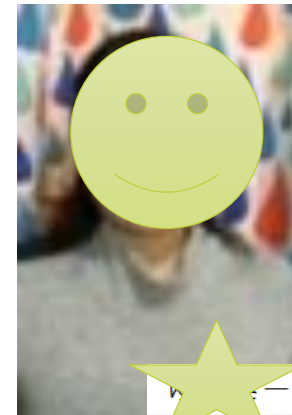
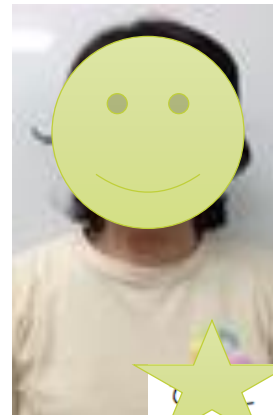
ひ
日にち

がつ 9月 30日 日にち 日曜日

じかん
時間

じ 14時 ~ 16時 じ でおんぷ
です ♪

く ひとり
来る人



中高生・小学生との出会い

1. ユニット全員にアドボケイトの紹介（寸劇）
2. 委員会の募集
3. 委員になってくれた子どもからアドバイス
4. 学年やグループごとにスペシャルルーム
5. 個別面談スタート
6. 自立支援計画表の作成とその後

アドボケイトは、

どんなことに注目して聴くのか

気持ち・思いや願い



施設での暮らしについて
気持ちについて
家族について
子ども自身のことについて

同意書の作成

子どもは自分の意志で

アドボケイトを指名



自立支援計画票をつくるためにアドボケイトを利用します

年 月 日 なまえ

あなた用とアドボケイト用の2枚にサインしてね。

●自立支援計画票ってね、あなたが学園で生活する基本になるものなんだよ！

いつもは、学園で生活するみんなの分を先生たちが考えて作ってくれている

よ。だけど今回は、アドボケイトがあなたから聞かせてもらった話やその意向を付

け加えて計画を作ってもらよ！

●1回目・・・自立支援計画票について説明するよ。わからないことは聞いてね

2回目・・・_____さんの気持ちとか考えをいろいろ聞かせてね

3回目・・・アドボケイトに話してもらったことを基に一緒に下書きを作るよ！

4回目・・・学園の先生に自立支援計画票の下書きと気持ちを伝えるよ！

5回目・・・出来上がった自立支援計画票を見せてもらい、気持ちが伝わっている

かどうか確認するよ！

●_____さんが話したことから伝えてほしいことだけを先生へ伝えるね。

(例外) あなたの命にかかわることや誰かが危険な場合には、大切なあなたを守るために先生へ

伝えることがあるかもしれないよ。そのときは、出来るだけあなたへ伝えてからにするね。

●アドボケイトの会議で話し合うことと、研究の発表に使わせてもらうことがあります。(もち

ろん秘密は守り、誰のことかがわからないようにします！

アドボケイトに
いろんな気持ちを
聞かせてね!



<p>あやつ</p> 	<p>あさ 朝ごはん</p> 	<p>きょうだい</p> 	<p>おや 親とか</p> 	<p>ならいごと</p> 	<p>か もの 買い物</p> 
<p>もん げん 門 限</p> 	<p>よる 夜ごはん</p> 	<p>ペット</p> 	<p>せんせい 先生</p> 	<p>で お出かけ</p> 	<p>りょこう 旅行</p> 
<p>ケータイ</p> 	<p>しせつ せんせい 施設の先生</p> 	<p>ともだち お友達</p> 	<p>ぶかつ 部活</p> 		
<p>ルール</p> 	<p>しせつ こ 施設にいる子</p> 	<p>せんぱい</p> 	<p>じゅぎょうさんかん 授業参観</p> 		
<p>へ や お部屋</p> 	<p>はなし お話タイム</p> 	<p>テレビ</p> 	<p>ゲーム</p> 		

Aさん：やさしく言ってほしい

どんな風に伝えてほしい？ 叱るときに声のボリュームを小さく、テンポは遅めに、優しいトーンでこえかけしてほしい。

- ①洗濯物が出ていないとき「出しゃー！もう、ほんまにあかんな～！」
→「出しゃ↗」優しい口調で言ってほしい。
- ②「今は無理！」 →「ちょっと待って。」
- ③「うるさい！」 「静かにして！」
→「ちょっと静かにしようか↗」優しい口調で言ってもらいたい。
- ④「廊下走らんとって！」 →「ちょっと静かにしようか↗」
- ⑤「それやめて！」 →「やめた方がいいよ。」

職員にこのフレームチェンジを渡しました。職員会議でもフレームチェンジが配布されました。職員も子どもの声に寄り添いたいという努力のおかげで、言葉遣いを変えました。後日Aさんに話を聴くと、職員の対応は良くなったと語りました。

障害児施設

今度、いつくる？
なんじに帰るの？
〇〇さんは？
ハルカスから
きた？
なにもってきた？

市民アドボケイトは、月2回～4回
2人～3人で施設を訪問して2時間
程度活動



出会いの場

- プレイルーム





アドボケイトとして とががいきます

しゅういっかい きんよう どの
週一回 金曜か土曜の
2じ～4じにきます。



あなたのおもいや こえを 大切にきくために ここにきます。
あなたからきいたことは、職員やほかのひとにはいいません。
わたしたちのことについて、しんぱいや しつもんがあれば、
先生につたえてください。



訪問活動の内容

- あそび 話す 出かける など
子どもの声をきく
受けとめた声 → 意見形成支援 → 伝える

アドボケイトとして訪問して

- 子どもと出会い、知り合う
- アドボケイトの役割を知ってもらう
- あそびなどを通して、気持ちやその表現を知る
- あそびなどを通して共感し、子どもの気持ちや問題を理解する
- 個別に時間や場所を確保して、子どもの声を聴き、いっしょになにができるか考える。 → 外出

子どもの声→伝える

視覚障害の子ども（中2）

2017年6月に出会う

楽しいおしゃべり

外出

2018年

「こっちにすわって」 落ち着かない様子

プレイルームにいるときの不安をきく

なんとかしたい → システム検討会へ

その後の対応と子どもの気持ち



アドボケイトとして

- 子どもの声を聴く（ひとりひとりにあった方法で）
- 子どもの意見表明を受けとめる
- 意見形成支援（子ども主導）
- 必要に応じて、施設の職員に子どもの気持ちを伝えたり、子どもの悩みが解決したり願いが実現したりするように、代弁、手助けをする。
- 個別支援計画へのかかわり

これから

- 子どもの生き方にかかわること
- 子どもの声を聴く社会の実現
- 活動の必要性と継続・広がり